（タイトル　16 ポイント）

北海道での経験

平成 28 年 10 月～平成 29 年 3 月
北海道教育大学釧路校地域・環境教育専修食育と環境教育研究室留学
大城　宏介
（琉球大学教育学部数学教育専修・コース）

まず私がこの交換留学に挑戦しようと決めた主な理由は、今までと環境を変えるということにありました。私は今までずっと沖縄で生活していて毎日の生活が当たり前のようでした。20 年間実家暮らしで親の手ばかりを借りていました。また、大学生活も半年が過ぎ、だんだん慣れてくると日々の授業で遅刻や欠席が目立ってきました。そんな中、交換留学の情報を耳にし、今までの自分を変えてみたいと思い挑戦してみようと決意しました。交換留学先での目標は、今までとは全く違った環境になるためさまざまな経験をすることと親元を離れ自分自身で身の回りの生活のことを管理するということに設定して私の半年間の留学はスタートしました。北海道につくと、早速、寮（四人部屋を三人で使用）で共同生活をし、北海道の環境の事や寮の決まりなど何もかもを同じ部屋にいる先輩や同じ階の同級生たちに教そわり助けてもらいました。ついたばかりは右も左もわからず、友達もほぼいなくて、授業の履修や部屋の片づけなど忙しい日々を過ごし、一週間があっという間に感じました。もちろん安心できる環境や自分一人のプライベートスペースはなくまずはこの寮になれること、そして寮を安心できる環境に思えるくらい皆に溶け込むことが必要だと思いました。寮の生活では、洗濯や身の回りの事ほとんど（食事は食堂があるため自炊ではない）が自分でやらないといけなくて、日頃の親のありがたさや家事洗濯の大変さを改めて知ることができ、また今までの私生活に対して反省もすることができました。

次に授業や活動についてはたくさんの貴重な体験をしました。私の所属していた専攻と研究室は、地域・環境教育専攻の食育と環境教育研究室というところで環境教育の授業や研究室活動で児童と調理実習などが主な取り組みでした。琉球大学では教育学部の数学教育専攻にいたのであまりそういった授業や活動は経験してきませんでした。しかし、自然体験活動という授業では班に分かれて自然の中をウォークラリーしたり自分たちで献立を決め野外炊飯をしたりと自然と触れ合う中で自分自身を見つめることや自然と共生することの大切さを学びました。また、冬のフィールドワーク演習という授業では、雪が積もった山の中をスキーで目的地までウォークラリーする活動の中で仲間と協力する大切さや自然を感じることなどを学びました。研究室活動では、小学生と一緒に調理実習を行う際に、その地域ならではの食材を使って調理しました。その時にも環境や地域とのつながりを考えることができました。

私が今回北海道教育大学釧路校に交換留学して貴重な体験をたくさん実感してきました。寮で自分のことをすべて自分自身で管理することをはじめ、雪国での厳しい寒さの中の生活など今までの 20 年間では味わってこれなかったこと。北海道ならではの自然体験活動。どれをとっても、もう味わうことのできないような体験ばかりで毎日が成長していたのではないかと思います。また、今回の留学で、肌で感じたことはいろいろな経験をするべきということです。留学に対して当初のころは不安ばかりでなかなか決心がつかなかったけれど留学を経験して後悔したことは一つもありません。だから、挑戦しようか迷ったことは、絶対に挑戦してみようと今回の留学から感じることがで

きました。また、私の高校の時の先生の言葉に、「迷っていたり、悩んでいるというのは、自分自身が乗り越えられるという可能性を感じているから」という言葉がありました。この言葉を最初聞いたときには、共感することができませんでした。しかし今回の留学という体験を通してこの言葉の意味が分かり、共感することができました。今後の学生生活また卒業してからの生活にもこの経験を活かし、さらに様々なことに挑戦し続けていきたいです。